

ゆうべつ町



議会だより

64
号

2026 (令和8) 年2月25日

発行/北海道湧別町議会

人と自然が輝くオホーツクのまちを目指して

【すくすく育てね
: 乳幼児健診】

主な内容

- 1 5期目の湧別町議会がスタート
第4回臨時会 (11月)
- 2 YuraYubetsu条例の制定
第4回定例会 (12月)
- 3 町政を問う
議員8人が一般質問
- 4 議会の活動
- 5 議会・委員会等議員出欠状況
- 6 広報議会だより発刊にあたって

議会だよりは町民有志プロジェクトにより選定された5色のゆうべつの色のうち、こころいろを使用しています。

新たな湧別町議会がスタート！

議員の改選後初めてとなる第4回臨時会は11月21日に開会し、議長や副議長の選挙、常任委員会委員の選任などを行い、5期目の新しい議会体制が始動しました。

このほか、選挙管理委員会委員・同補充員の選挙、監査委員の選任などの議案等が提出されました。(審議結果一覧を5ページに掲載)

議長・副議長選挙を実施

議長に

脇坂敏夫

議員

副議長に

下田英人

議員

議長と副議長の選挙がそれぞれ議員11人の投票により実施され、議長に脇坂議員が、副議長に下田議員が当選しました。

委員会の構成が決定

新たな議席が指定されたほか、常任委員会や議会運営委員会の委員の選任、遠軽地区広域組合議会議員の選挙を行いました。

また、議会広報編集特別委員会を設置することについて、審議・採決の結果、全会一致で原案可決しました。

総務厚生常任委員会

委員長 村川勝彦 議員

副委員長 関野一良 議員

産業文教常任委員会

委員長 小形秀和 議員

副委員長 高田映二 議員

議会運営委員会

委員長 高田映二 議員

副委員長 関野一良 議員

開かれた議会を目指して

湧別町議会議長 脇坂 敏夫



昨年10月の議会議員選挙により、議員11人が選任され、湧別町5期目となる新たな議会がスタートいたしました。

若い議員も加わり、新たな視点で町の活性化に向けて協議を進めてまいります。

また、意見交換会など町民の皆様方の声を聞く場を設け、町政に反映すべく議員一丸となって研鑽してまいります。

今後、湧別町自治基本条例の基本理念・基本原則を遵守し、議会の役割と責務を自覚しながら、よりわかりやすく開かれた議会となるよう運営してまいります。

より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



水野代表監査委員

- ・北兵村三区
 - ・水野 豊氏（再任）
 - ・上湧別屯田市街地
 - ・竹林直人氏（新任）
- 【識見選出】
- 【議会選出】

監査委員の選任に同意を求められ、審議の結果、全会一致で同意しました。

（任期4年）

監査委員の選任に同意

- 遠軽地区広域組合議会議員
- ・脇坂敏夫 議長
- ・下田英人 副議長
- ・村川勝彦 議員
- ・小形秀和 議員
- 議会広報編集特別委員会
- 委員長 姉崎正弥 議員
- 副委員長 村瀬直由 議員

産業文教常任委員会



（後列）大野委員、下田委員、姉崎委員
（前列）小形委員長、高田副委員長

町の事務（農政課、水産林務課、商工観光課、建設課、水道課、農業委員会、教育委員会の所管に関する事項）に関する調査を行うほか、本会議で付託された議案、請願等を審査します。

総務厚生常任委員会



（後列）村瀬委員、檜山委員、竹林委員
（前列）村川委員長、関野副委員長

町の事務（総務課、企画財政課、住民税務課、福祉課、健康こども課、会計管理者、監査委員、選挙管理委員会、固定資産評価審査委員会、他の常任委員会の所管に属さない事項）に関する調査を行うほか、本会議で付託された議案、請願等を審査します。

議会広報編集特別委員会



（後列）竹林委員、大野委員
（前列）姉崎委員長、村瀬副委員長

議会の活動状況を町民に周知することにより、町民の議会への理解と関心を高め、町政の発展に寄与することを目的とした「ゆうべつ町議会だより」の編集および発行を行います。

議会運営委員会



（後列）村川委員、下田委員、小形委員
（前列）高田委員長、関野副委員長

議会が円滑に運営されるよう、議会運営、議会の会議規則や委員会条例等、議長の諮問に関する事項の協議や調査を行うほか、本会議で付託された議案、請願等の審査を行います。

選挙管理委員会委員、 同補充員が当選

指名推選により選挙が実施され、それぞれ当選しました。
(任期4年)

【選挙管理委員】

上湧別屯田市街地

高橋直司氏(再任)

上芭露

西原沙智恵氏(再任)

上湧別屯田市街地

近藤優子氏(新任)

北兵村一区

佐藤敏正氏(新任)

【補充員】

錦町

山本重幸氏(新任)

錦町

今井秀和氏(新任)

東芭露

植田喜代子氏(再任)

緑町

岩佐真智子氏(再任)



令和7年度補正予算の可決

令和7年度一般会計補正予算が提案され、審議・採決の結果、全会一致で原案可決しました。

主な内容は次のとおり

○ふるさと納税支援業務

委託料 1億1539万円

○ふるさと応援基金積立金

2億2367万円

町長の 行政報告

— 要約掲載 —

第43回湧別町産業まつり

去る9月23日に快晴の秋空が広がる中、町民憩の広場が会場に「湧別町産業まつり」が開催され、たくさんの方々が賑わいました。

「湖陵太鼓演奏会」「鮭のつかみどり大会」など、会場は大いに盛り上がり、ステージでは「町内中高生の吹奏楽演奏会」「産業レンジャーショー」「山本紗綺歌謡ショー」「お楽しみ抽選会」を行い、盛会のうちに終了しました。

公営塾開設式

去る10月1日に湧別高校図書館にて湧別町公営塾の開設式を開催しました。湧別高校生徒の進路や夢の実現を支援することを目的として、学習意欲や学力向上と湧別高校の魅力を高めることを目指しています。

今後は、大学や企業、地元産業団体などの関係機関と連携し、支援の充実、探求的な学びの場を提供し、湧別高校が町内外から進学先として選ばれるような魅力ある取り組みを検討してまいります。



公営塾開設式の様子

学生寮完成披露内覧会

去る11月3日に湧別高校学生寮完成披露内覧会を開催し、寄附をいただいた長谷川芳博様ほか多くの方々にご出席いただきました。

学生寮の設計および建設費用として2億円を長谷川様にご負担いただき、木造2階建て、延べ床面積約738平方メートル、居室を1階に6室、2階に12室を備えています。

学生寮の完成を契機として、湧別高校の魅力化に向けて、取組が着実に進んでおり、生徒が安心して学べる環境を

整備し、高校の魅力化と存続のために引き続き支援してまいります。

住民訴訟

原告が取得した非木造家屋について、平成17年度から令和6年度まで町に納付した固定資産税に過納付があるとして、損害賠償金の支払いを求められた損害賠償請求事件について、去る10月21日に札幌高等裁判所で第1回口頭弁論が行われ、原告からの評価の際に乘じる調整率の誤りの主張に対し、評価当時の調整率に誤りはなく、原告の主張には法的根拠等が見いだせず、理由がないことを主張しました。

すべての弁論を終結し12月18日に判決が言い渡されることになりました。

(12月18日の判決は「控訴棄却」となり、町の主張が全面的に認められた判決となりました。)

審議結果一覧

Result of Deliberations

令和7年
第4回臨時会

審議された議案等

(1万円未満切捨て)

選挙	議長選挙について 地方自治法に基づき議長の選挙を行うもの。投票による当選人：脇坂敏夫	当選
	副議長選挙について 地方自治法に基づき副議長の選挙を行うもの。投票による当選人：下田英人	当選
	遠軽地区広域組合議員の選挙について 遠軽地区広域組合議員の選挙を行うもの。指名推選による当選人：脇坂敏夫、下田英人、村川勝彦、小形秀和	当選
	湧別町選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について 選挙管理委員会委員等の選挙を行うもの。指名推選による当選人：各4人	当選
人事	常任委員の選任について 常任委員を選任するもの。	選任
	議会運営委員の選任について 議会運営委員を選任するもの。	選任
	監査委員の選任について 令和7年11月24日任期満了による後任の識見選出の委員を選任するもの。	同意
	監査委員の選任について 令和7年11月14日に任期満了により欠員している議会選出の委員を選任するもの。	同意
報告	専決処分の報告(和解及び損害賠償の額の決定について) 令和7年6月24日に発生した公用車の車両事故による物損事故の和解および損害賠償額の決定について報告されたもの。	
予算	令和7年度湧別町一般会計補正予算 4回目の補正で、3億7,270万円を追加し、歳入歳出予算の総額を124億5,971万円とするもの。	原案可決
その他	議席の指定について 議員の議席(1～11番)を指定するもの。	指定
	議会広報編集特別委員会の設置について 議会広報編集特別委員会を設置し、委員4名を選任するもの。	原案可決
	閉会中の所管事務調査等の申出 議会運営委員会 次期議会の会期日程等議会運営に関する事項及び議長の諮問に関する事項	承認

湧別町議会会議録がホームページで閲覧できます

湧別町ホームページ
会議録閲覧
(2次元コード)

令和6年1月以降の議会会議録は町ホームページにて閲覧することができます。
令和5年12月までの会議録の閲覧をご希望の際は、下記閲覧場所にて職員にお申出ください。



【閲覧場所】 議会事務局(役場上湧別庁舎3階)、湧別図書館、中湧別図書館

【閲覧内容】 平成21年第1回臨時会から令和7年第3回定例会(令和7年9月16日開催)まで

湧別町宿泊交流施設の 名称がYuraYubetsuに

令和7年
第4回定例会



第4回定例会は12月16日に開会し、町長の所信表明に続き、8人の議員から一般質問が行われました。また、町から令和7年度各会計補正予算、条例の改正、指定管理者の指定など議案等39件、議会から承認1件が提出され審議を行い、12月17日に閉会しました。



湧別町宿泊交流施設の 名称・使用料等を可決

寄附を受けた湧別町宿泊交流施設に対する条例の制定が提案され、審議・採決の結果、**全会一致で原案可決**しました。

新施設の名称は「Yura Yubetsu」となり、令和8年度からの湧別高校生受入れのための使用料等が制定されました。



宿泊交流施設YuraYubetsu

芭露保育所の移転および 放課後児童クラブの新設

芭露保育所の移転改築に伴う位置変更および放課後児童クラブを新設するための条例の制定が提案され、審議・採決の結果、**全会一致で原案可決**しました。

指定管理者の指定を可決

令和7年度をもって期間満了する、公の施設の指定管理者の指定について議決を求められ、審議・採決の結果、**全会一致で原案可決**しました。

湧別寿の家の廃止

湧別寿の家の廃止に伴う条例の制定が提案され、審議・採決の結果、**全会一致で原案可決**しました。

町職員の給与に関する 条例等の一部改正を可決

令和7年人事院勧告に基づき、職員の給与表および職員、議会議員、特別職の勤勉手当、会計年度職員の給与表を改正するための条例の一部改正が提案され、審議・採決の結果、**全会一致で原案可決**しました。

※管理期間はいずれも

令和8年4月1日～

令和13年3月31日

(5年間)

- 宮の森センターほか地区公民館等16件
- 指定管理者 各自治会

- 湧別町福祉会館
- 指定管理者 社会福祉法人湧別町社会福祉協議会

- 湧別町営バスおよびスクールバス
- 指定管理者 湧別小型・湧別ハイヤー・中湧別ハイヤー共同企業体

令和7年度各種会計補正予算

(1万円未満切捨て)

会計名		補正回数	補正額	補正後予算額
一般会計		5・6回目	2億977万円	126億6,948万円
国民健康保険特別会計		2回目	49万円	14億4,951万円
介護保険特別会計		2・3回目	272万円	12億546万円
水道事業会計	収益的収入	2・3回目	27万円	1億9,361万円
	収益的支出		321万円	2億3,858万円
簡易水道事業会計	収益的収入	1回目	56万円	1億2,806万円
	収益的支出		56万円	1億2,806万円
下水道事業会計	収益的収入	2・3回目	170万円	2億6,955万円
	収益的支出		170万円	2億6,855万円

※追加議案が提出され、補正回数が増えています。

令和7年度補正予算の可決
一般会計ほか特別会計の補正予算がそれぞれ提案され、審議・採決の結果、全会一致で原案可決しました。

一般会計補正予算の主な内容

(1万円未満切捨て)

事業名	補正額	内容
職員等給与費（特別職・議会議員含む）	480万円	令和7年人事院勧告に基づく給与改定および人事異動・退職による不足額の追加
定住促進事業	3,092万円	定住住宅取得奨励補助と民間賃貸住宅等取得補助の申請件数の増
湧別高等学校学生寮施設管理業務委託料	867万円	学生寮開設準備のための施設管理委託料の追加
高齢者世帯等生活支援事業	1,180万円	物価高騰対策として高齢者世帯等に対する商品券交付事業の実施による追加
水道事業会計等繰出金	2,347万円	物価高騰対策として行う、水道使用料基本料金の減免に伴う繰入金金の追加
物価高騰対策事業	6,664万円	物価高騰対策として行う商品券交付事業として追加
学校体育館空調設備設置工事実施設計	1,390万円	各義務教育学校の体育館に空調設備を整備するための実施設計業務の追加
学校給食センター燃料費、賄材料費	505万円	物価高騰による不足額の追加

次の議会定例会は、3月4日を予定！

主な内容は、議案審議と一般質問です。
議場での傍聴が可能です。
また、上湧別コミュニティセンター、湧別庁舎、文化センターTOMにて、議会の様子を生中継しています。ぜひご視聴ください。
詳しくは、今後のかわらばん、町ホームページでお知らせします。



令和7年12月開会の第4回定例会において8人の議員から質問があり、理事者の答弁は、次のとおりです。
(質問と答弁は要約)

- | | |
|--|---|
| <p>1 下田英人 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人工降雪機導入について ②庁舎建設のめどについて <p>2 檜山洋一 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「役場庁舎建設に係る実施設計解約及び現庁舎の暑さ対策」について <p>3 関野一良 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新庁舎建築凍結について ②株オホーツク湧別バイオガスについて <p>4 姉崎正弥 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①庁舎建設計画凍結に伴う影響と今後の対応方針について ②病後児保育導入による子育て支援施策の充実について | <p>5 竹林直人 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新庁舎建設凍結について ②公共交通機関について <p>6 大野真紀 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①農村環境改善センターへ遊具集約について ②町民の移動手段について <p>7 村川勝彦 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①住民の生活にかかせない東山浄水場の改修について ②曾我病院の存続支援について ③高齢者の外出支援について <p>8 小形秀和 議員</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大規模災害対策について ②新庁舎建設反対に寄せられた意見について ③全道に誇れる湧別町とは ④公共施設再配置計画について |
|--|---|

近年の降雪量減少により、五鹿山スキー場の営業開始が例年より遅延し、一般のスキー愛好家はもとより、学校のスキー授業等に大きな支障を来すことが常態化している。

当地域は、もともと降雪量が少なく、オープン前に大型

下田議員



スキー場に人工降雪機の導入を



設備の導入経費等を調査しながら検討していく



下田議員



これら整備の導入経費やランニングコストなど様々な課題があることから、経費や財源などについて調査しながら総合的に検討していく。

人工降雪機の導入は降雪に左右されず、計画的に営業期間を維持することができ、設備の導入に当たり、ポンプや配管、貯水池などの関連施設が必要となり、新たに水道管を埋設する必要があり、

地球温暖化の影響により年間の降雪量は減少傾向にあり、2シーズン続けて営業開始が遅れた。

加藤町長

ダンプロトラック100台以上の雪を山頂へ搬送しており、安全面や経済面における負担が極めて大きい。

そこで、シーズンを通じて十分な積雪量を確保するため、人工降雪機の導入について検討いただきたい。

【再質問】

下田議員

降雪機本体の購入費用、設置に伴う関連設備の工事費の概算額は。

加藤町長

人工降雪機は1機1500万円ほどだが、水源確保の整備と合わせて約1億円の経費がかかるので、財源、補助について調査していく。



新庁舎建設凍結は行政機能の集約化問題の先送りでは



現庁舎を改修し使えるものは使っていく

下田議員

新庁舎建設をめぐる議論の末、計画の白紙撤回を掲げた加藤候補が町長に就任し、当

面は現庁舎を維持していく考えだが、十数年後建設しようとするときはほぼ全額を町の自主財源で賄うことになる。

選挙で示された民意を尊重することは大切なことであり、理解できるが、計画を先送りし、将来に過度な財政負担を課すことは長期的視点での責任ある判断とは言い難い。

そこで次の4点についての考えは。

- ①近い将来必ず庁舎の建て替えが必要となるが、着工期の想定は。
- ②国の支援が受けられない場合の資金計画は。
- ③合併から17年を経過しても、行政機能の集約が進まない現状について見解は。
- ④現庁舎の立地が自治体事務所として適切か。

加藤町長

①庁舎建築の凍結を公約に掲げ当選できたことは、民意の賜物である。

現在進めている新庁舎整備事業は凍結し、しばらくは分庁舎を継続していく。

上湧別庁舎は築38年でまだまだ使える庁舎であり、新庁舎の着工時期を今の時点で具体的に答えるのは難しい。

②国の支援である合併推進債はあくまでも借金であり、その償還が将来の負担になる。

将来に向け基金の創設、庁舎を複合化するなども視野に、活用可能な地方債、補助金等を含め検討していかねばならない。

③行政機能の集約化について、全ての職員が1か所に集まるのが一番効率的ではあるが、そこにたくさんの方をかける、今行わなければならないかは疑問である。

上湧別庁舎への一部集約および他の公共施設の統廃合を含めた中で検討を重ねる。

④上湧別庁舎は長年行政機能の中枢施設として使用されていることから庁舎として十分適切で、必要な改修を行うことで今後も十分使用可能である。

【再質問】

下田議員

資金計画について、全てが借金との印象を与える説明だが、実際には費用の50%を国や道からの財政支援で賄える制度であり、なぜ当該補助制度の存在を答弁に盛り込まれなかったのか。

庁舎機能の集約が進んでいない現状を、考えるものは使わず、一部集約を考えるとの答えでは問題の先送りである。

具体的に、いつまでに、どの機能を、どの庁舎からどの庁舎へ集約するのか。

また、現状の分散により住民サービスや行政コストにどの程度の負担増が生じているか。

さらに、庁舎建設には中心地の中湧別地区が最適と主張してこられたが、町長に立候補した途端に中湧別地区でなくなった根拠は。

加藤町長

起債は50%、後年度に交付税としてはね返る制度だが、一遍にお金が入ってくるわけではない。

私は問題の先送りとは思っておらず、使えるうちは使いましよと訴えてきた。

刈田前町長は中小でないといふふうを考えてこられたが、私は違う場所もあるのでないかということで凍結と訴えてきた。

総合的に考えて、どの場所がふさわしいかというのは、今後に向けて考えていくが、私の任期中は新しい庁舎を建てるという考えはない。



加藤町長



檜山議員

実施設計の契約解除時期は

早期に解除を完了する

檜山議員

役場庁舎の建設に係る実施設計は、令和8年3月完成の予定で2億4400万円の契約となつているが、建設の凍結に伴い、いつ契約解除を行い、契約解除後の支払い額と違約金の発生は。

また、現庁舎の活用に伴い、暑さ対策をする考えは。

加藤町長

契約解除は契約条項をしつかりと確認し、誠意を持って相手方と協議をしていく。

支払い額については、設計業務が8割以上完了しており、その分の出来高に対しての支払いは必要である。

設計業者には、解除に伴う違約金、損害賠償などの請求はしないと確認している。

また、総務省より実施設計後に建設工事を実施しないことが明確であるならば、地方債の対象にならないと回答を受けたことから、契約解除の判断に時間をかけることは町にとってよいことではないと考え、早期に解除を完了するよう担当に指示を出した。

次に、現庁舎の暑さ対策については、近年の猛暑における職員の執務環境の改善だけでなく、来庁者に対するクーリングシェルターとしての配慮も必要であり、上湧別庁舎に必要な範囲内での冷房設備の設置を検討していく。



加藤町長

新庁舎建設に要した経費の総額は

総額で2億5,825万2,080円

関野議員

湧別町長選挙候補者公報において、記載された施策について2点お聞きする。

- ①新庁舎建設の基本構想、基本計画策定、実施設計委託までに要した経費の総額は。
- ②庁舎建築は凍結と公約されているが、町長が思い描く庁舎へのビジョンは。

加藤町長

①庁舎等検討委員会委員への報酬、費用弁償、庁舎等集約化基本構想策定業務委託料、新庁舎建設等基本計画策定業務委託料、新庁舎建設等基本設計実施設計業務委託料、執務環境プラン策定支援業務委託料の合計額は2億5825万2080円である。

②私が考えるビジョンは、庁舎整備が必要になる将来に向け基金の積立てなどを行い、そのときの人口、財政状況、職員数などを踏まえた上で身の丈に合った庁舎を建設すべきで、その道筋をつけることが私に課せられた役目である。

【再質問】

関野議員

庁舎凍結にかかった経費約2億5800万円を町民が支払うこととなるが、そのことの重みをどう考えているか。

加藤町長

これから実施設計等業務の契約額2億4000万円に対して、負担分2億1000万円を支払うことになるが、庁舎を建てることによって、59億円の大部分は町の単独持ち出しとなり、今回の2億1000万円と比較考慮すると、どちらが町にとって有利なのかということだと思ふ。

私は庁舎を凍結するほうが町民にとって、安心して暮らせるまちづくりにつながっていくというふうに考える。

Q (株)オホーツク湧別バイオガスへの支援は

A 固定資産税の減免等の措置を行う

関野議員

株式会社オホーツク湧別バイオガスについて、漁業、酪農畜産業の終末処理に官民挙げて連携を取りながら立ち上げたところだが、物価高騰により事業運営も厳しいものがあると聞いている。湧別町として側面からどのような支援をしていく考えか。

加藤町長

オホーツク湧別バイオガス株式会社が設立され、3400頭規模の集中型バイオガスプラントが10月1日から正式稼働し、北海道電力への売電を開始した。

物価高騰の影響によりプラントの維持管理経費の増加や稼働後の想定外の出資などがあり、町として国の整備費補助に上乘せ補助を行ってきたが、固定資産税の減免措置のほか、資金借入れ利息の一部負担と、それに伴う保証料の全額補助を行っていく。

また、余剰ガスと余剰熱を活用した取組についても民間

企業の協力を視野に入れ、さらなる再生可能エネルギーを活用した収入源の確保についても考えていく。

Q 新庁舎建設に賛成の町民への意見聴取は

A まちづくり懇談会で丁寧な説明を行う

姉崎議員

庁舎建築について、3点お聞きする。



姉崎議員

① 庁舎建築計画の凍結により、今後必要となる改修、修繕の具体的な内容は。

② 庁舎建築計画には、多くの賛成の声があり、計画凍結に当たってそうした町民の声を踏まえた上で、意見聴取や説明の機会を設けることが必要と考えるが町長の考えは。

③ 国および道による予算措置が進められていた庁舎建築事業を凍結することにより、今後の補助金や交付金等に不利益な影響が生じないか。

加藤町長

① 湧別庁舎は耐震化していないため、長く使っていくためには、躯体そのものの大規模改修が必要となり、多額の経費がかかる。

上湧別庁舎と上湧別コミュニティセンターは耐震化もされているが、今後長く使っていくためには暑さ対策としての冷房設備の設置やボイラーの更新、耐用年数を迎えた情報ネットワーク機器の更新などが必要となってくる。

上湧別庁舎の一部を集約することなどを検討しながら、

現在ある庁舎や公共施設について必要な改修を行い、分庁舎方式を継続していく。

② 私は町長選挙において、庁舎建設の凍結を最大の争点として掲げ、選挙に臨んだ。

また、今回の選挙は、庁舎建設の是非を伴う住民投票であったと思っており、選挙結果は大変重たいもので、賛成の意思表示をされた町民の皆様もこの結果が意味するものを十分理解されているものと考えている。

計画を凍結する以上、少しでも町の負担を減らすことが私の責務であり、そのためには早急に解除に向けた事務を進めなければならぬことから、意見聴取等を実施することは難しく、来年1月中旬から開催を予定している「まちづくり懇談会」において、庁舎の関係を含め丁寧な説明を行っていく。

③ 今回の事業を凍結することで国などに対し直接影響を及ぼしているものではないことから、そのような心配は一切ないと思っている。

また、今後の補助金などに不利益が出るようなことがあ

れば、それは断じて許されることではなく、その際には国などに対し、しっかりと対応を求めていく。

【再質問】

姉崎議員

① 新庁舎の建築に対し、現庁舎の改修維持費の具体的な金額や試算が一切示されておらず、どちらが中長期的に財政負担が小さいのか比較できない。改修、修繕に要する概算費用の試算は。

また、分庁舎方式の継続による職員の移動コスト、住民の利便性の低下、業務効率の低下など、行政運営上の課題についてどのように認識しているのか。

② 懇談会で出された意見を今後の庁舎の在り方にどのように反映させるのか。

また、建設に賛成してきた町民の不安や不満に対し、どのように向き合っていくのか。

町長選挙は、町政全般を選択するものであり、単一事業である庁舎建設の是非を確定

させる制度ではない。

理解しているはず、受け止めては、説明責任を果たしたことはならないのでは。

加藤町長

① 冷暖房の設置やボイラー等の更新に係る経費は今見積もり中であり、議会全員協議会などにて説明していく。

今湧別庁舎にある課をどの程度こちらに集約できるか検討していきたい。

基本的な私の考え方は、今回の庁舎整備総額59億円のうち交付金を除く30億円は自分の懐から持ち出しとなる。

単純に今回の改修費と比較すると、私は僅かな金額で、相当改修できると考えている。

職員の移動（決裁）については、事務決裁規程の見直しについて内部で検討していく。

② 懇談会は立派な意見聴取の機会であり、いろいろな意見に対し丁寧な説明をして対応していく。パブリックコメントや町長

への手紙などの機会をどんどん増やし、私のモットーとする声なき声、そういうものを拾っていく。



病後児保育の早期導入を



施設・人員確保の課題解決が必要

姉崎議員

近年共働き世帯の増加や働き方の多様化が進む中、子どもが病気にかかった際に保護者が仕事を休まざるを得ない状況は子育て世帯にとっては大きな負担となっており、その支援策の一つとして病後児保育が上げられる。

現状、本町や近隣自治体においても導入には至っていないが、将来的な子育ての支援強化や安心して子育てができる環境づくり、さらには定住促進や地域全体の子育て支援体制のモデルケースとしての役割を考えると、本町が先がけて病後児保育事業に取り組む意義は大きいと考える。本町が先駆的に病後児保育事業に取り組むことについて町長の考えは。

加藤町長

病後児保育事業はオホーツク総合振興局管内では、北見市、網走市、紋別市にて実施されている。

アンケート調査を行い作成した「第3期子ども・子育て

支援事業計画」において、年間延べ200人の利用希望があることを見込んでおり、計画期間中に病児保育事業、病後児保育事業の提供体制を検討することとしているが、専用の実施スペースや看護師、保育士等の人員配置など、これらの課題解決に一定の時間と検討が必要である。

今後とも町民の皆様の意見や要望を丁寧に伺いながら適切な支援体制の整備に取り組んでいく。

【再質問】

姉崎議員

施設基準、人員基準、医師の確保は全国どの自治体も同じ条件であり、約6割の自治体が病後児保育を導入している実情もある。

病児、病後児保育事業の必要性について、既に把握しているのであれば、早急に取り組むべき施策ではないか。

また、病児保育事業は医療的対応や人材確保の面でハードルが高い一方、病後児保育は症状が回復期にある子ども

を対象としていることから、比較的導入しやすく、既存施設の活用も可能である。

まずは、病後児保育事業から着手し、運営実績や課題を積み重ねた上で将来的に病児保育へと段階的に拡充していくことが、現実的かつ合理的な進め方であると考えるが。

加藤町長

病後児保育は非常に先駆的な事業であり、良い政策だとは思っているが、予算規模あるいは専門職員の確保などに不安がある。

現在の町の保育所でも保育士が不足しており、病院でも看護師不足の実情がある中で、新たにこの事業を展開するととなると、今の段階では難しい。

また、調査結果は利用希望であり、実際に対象となる方については再度調査をしてみないとわからず、問題、課題を含めて検討していく。



重点課題と新庁舎建設は並行してできるのでは



重要課題を優先的に進めていく

竹林議員

新庁舎建設の凍結について、加藤町長は、今年5月の町内自治会の総会にて、「新庁舎建設反対ではなく、建てる場所が適切ではないと考



ち、9月の北海道新聞の取材には、「新庁舎建設は凍結する」と意見が変わったが、この4か月間にどのような変化があったのか。

また、「合併推進債を利用した建設費の返済が財政を圧迫するため、今は建設を凍結する」とのことだが、この先の人口を見越した中、どの程度の金額であれば湧別町にとって適切な建設費と考えるのか。

加藤町長

4月に出馬表明した際には、新庁舎は中湧別地区の中心部にある文化センターTOM周辺に身の丈に合ったコンパクトな庁舎が望ましいと考えていたが、たくさんの町民の皆様の声を聞き、さらには支援者、後援会との公約の策定に向け協議を進める中で、今の湧別町が最優先にやらなければならぬことは産業振興対策や高齢者施設、医療機関の充実など町民の生活に直結した施策の推進であるとの考えに行き着いた。

さらに、中湧別小学校跡地

に新庁舎等を整備する計画は当初より賛同することとはできなかったことから、当初から計画は凍結する考えであり、6月に公約として公表したものである。

私は今回の選挙に出馬する上で、町が進める新庁舎建設計画は将来の人口減少を見据えたとき、整備規模は過大であり、物価高騰が続く中において事業費の増加が見込まれ、このまま計画が進むと将来に向け財政危機を招くことを懸念し、私が町長になり、この計画をやめなければいけないで選挙に臨んだ。

人口減少を見越した中で庁舎の建設費がどの程度が適切かは、現状において庁舎を新築整備する考えがないことから、答えを差し控えさせていただきます。

【再質問】

竹林議員

有権者の方から、庁舎を建設すると水道料金が上がる、年金が減る、国民健康保険料が上がるといった声を聞いて

た。

町長はこういった考えを持っていいのか。

また、財政調整基金の積立が平成26年の35億円から令和5年には54億円となっており、10年間で約20億円の貯金が増えていくことから、重点課題と庁舎建設は並行して行えるのではないかと。

新庁舎建設に対する返済計画に無理がないように感じるが、町長はどのような点が財政危機を招くと考えるのか。

さらに、現計画における庁舎建設費のみの金額は33億円だが、10年後に身の丈にあった、この半分の現在価値17億円の庁舎を建設しようとする場合24億円、20年後には30億円かかる試算される。

今建てると、手出し33億円で59億円現在価値の建物を後々の世代に残すことができるかと考えるが。

加藤町長

水道料金は今後の施設改修によるが、現状水道料金が上がるとは考えていない。

いずれにせよ、庁舎建設と年金や公共料金等についての関連性はない。

今回庁舎建設に59億円をかけるのであれば、医療関係、産業振興などにお金をつぎ込んだほうがいいのかではないか。これは比較考量の問題であり、私は、庁舎よりもそちらの政策に対して優先的に進めていきたい。

Q 持続可能な公共交通機関のビジョンは

A 最優先課題として検討を進める

竹林議員

公共交通機関について、昨今バスのルート変更や減便などが進み、利便性の低下、そこから利用者の減少と、いわゆる負のスパイラルに陥ってしまっていると感じる。

この先、湧別町において持続可能な公共交通機関について、町長はどのようなビジョンを持っているか。

加藤町長

地域公共交通の核となる路線バスが、令和6年の運転手労働時間の規制強化、運転手不足の影響を受けて全道各地において縮減が続いており、湧別町においても、遠軽―紋別間のバスで遠軽からの最終便が休止となるなど影響が出ている。

バス路線を維持するため、北海道北見バス、北紋バスが運行するバス路線の再編が行われ、湧別市街を通らないなどルート変更も行われている。



バスを利用する学生

交通に不便を感じている町民の声を多く聞き、交通弱者に対しての足の確保のさらなる充実が必要であると痛感し、最優先で解決しなければならぬ課題であると捉え、町長就任後直ちに庁舎内に地域公共交通検討プロジェクトを立ち上げ検討を進めている。

地域の实情に即した利便性の高い輸送サービスを実現するため、交通弱者の足の確保の在り方を検討していく。

【再質問】

竹林議員

交通弱者の方だけではなく、地域振興、商業の振興のために若い方たちの移動の足に使えるような、子どもたちが部活の送迎など気軽に移動できるような交通ルートを作っていたきたい。

また、他の町村では自動運転の車を走らせる実証実験も行っているが、長期的にこういった新技術を取り入れていくような予定はあるのか。

加藤町長

佐呂間町では、今事業者と委託をして、ライドシェアを国の補助を使い実証実験しており、これから本格稼働させるスケジュールと聞いている。

ライドシェアは民間のハイヤー会社との関連性があり、民間の企業を圧迫させず、隙間をライドシェアが埋めるという考えである。

対象者は、交通弱者の高齢者はもとより、若年層、親が行けない部活の送迎、ハイヤー会社の営業終了後などの利用として調整を進めているとのことで、本町にこれが実証、あるいは実行していけるかどうか検討していきたい。

また自動運転については、まだそれを運行している町村は少ないが、上土幌町の例について検討していきたい。



大野議員

Q 遊具の集約と安全確保を

A 子どもの興味、関心を調査し検討する

大野議員

上湧別屯田市街地において、農村環境改善センターは地域の住民が多く利用し、子どもたちの唯一の遊び場である。現在旧上湧別小学校と旧上湧別保育所に設置してある遊具を活用するため、農村環境改善センター周辺へ集約させる。

てはと考えるが町長の考えは。

加藤町長

上湧別農村環境改善センターは、なかよし児童センターやちびっこ広場児童クラブが実施されるなど、子どもから高齢者まで多くの町民に利用されている。

旧上湧別小学校と旧上湧別保育所の遊具の維持管理は、毎年専門業者による点検等の安全確認を行っているが、遊具の集約については、遊具を設置するスペースがなく、さらに両施設の遊具もかなり古く、移転にも経費がかかることから、現状のまま維持管理を行っていく。

【再質問】

大野議員

児童が旧上湧別小学校の遊具を使用時に事故が起きた場合、助けを求める大人がそばにいない。農村環境改善センターには管理人が常駐しているので安心である。

施設敷地内だけでなく、隣の旧上湧別保育所に遊具を集約する、または、遊具の種類を減らして新しいものを設置してはどうか。

また、設置に際しアンケートを取るなど保護者から意見を聞いたり、自治会と協議をするなど、安心、安全である遊び場であることを念頭に検討してほしい。

加藤町長

旧上湧別小学校の遊具は相当老朽化しており、移転させることは不可能だと思う。

子どもの事故への不安については、旧上湧別保育所と農村環境改善センターの間にフェンスがあり、その一部を外して移動しやすくするなど、の対応を視野に入れながら検討していく。

また、こういった遊具が子どもたちに興味、関心を持つてもらえるかを調査して今後対応していく。



Q 交通弱者に対する早急な対策を

A プロジェクトにおいて検討する

大野議員

高齢のため運転免許を返納した方や学生などは車を運転し移動することができないが、バスの本数は少なく、タクシーの料金は安くはない。信部内や川西の町民がバスで湧別の商店街付近へ向かう際には湧別バスターミナルに停車しないため乗換えが必要となる。不便を感じている町民のために、早急に移動手段を考えるべきではないか。小清水町のライドシェアのような制度も有効と考える。

加藤町長

運転免許証を返納された方や学生などの交通弱者に対して足の確保のさらなる充実が必要であると痛感しており、佐呂間町で行っている公共ライドシェアの視察を行った。地域の実情に即した利便性の高い輸送サービスを実現するため、地域公共交通検討プロジェクトにおいて交通弱者の足の確保の在り方を検討していく。

【再質問】

大野議員

町民にとって交通手段がないというのは本当に重大な問題であり、ライドシェアは、早急に考える上でとても検討しやすいと思う。早急な対応が必要な中、実施はいつ頃と考えているか。

加藤町長

ライドシェアを進めるには、既存のハイヤー会社といかに連携を組めるのが鍵と

なる。

実証実験を導入するのに国土の調整もあるが、早急に交通弱者対策を進めていきたい。

Q 早急な水道施設の整備を

A 改修期間や財源を含め検討する

村川議員

東山浄水場は耐用年数が経過し、大変老朽化している。



村川議員

浄水場の改修について、補助制度が施行されており、大勢の方々から早期改修との声があった。水道は企業会計であり、住民にも負担がかかる要素があるが、一日でも早く着工すべきと考える。いつから計画を立て進める考えか。

加藤町長

東山浄水場は、竣工から今年で41年が経過し、全面更新の時期が近づいており、優先課題の一つと認識している。東山浄水場を更新した場合、基本設計から供用開始までおよそ4年から5年程度必要であり、そのほかに、取水施設や送水管等の更新、耐震化も必要となる。

これらの整備には莫大な費用が必要だが、水道施設の整備に係る費用は水道料金で賄うことが原則であることから、水道料金的大幅な見直しが必要となる。東山浄水場は躯体自体に大きな修繕が必要な状況ではなく、内部設備の更新や整備等による延命化を検討し、でき

る限り整備費用を抑え、町民の負担を少なくするための検討を進めていく。

【再質問】

村川議員

東山浄水場については、今一般会計からの繰り出しによる修理を行っているが、積み重なると相当な金額になっていく状況もあり、また昨今の気象状況の大幅な変動により、いつ何が起こってもおかしくない。

3年前にも一般質問したが、その時の事業の金額と大幅に変わってきており、できるだけ早く事業を進めていくことを明確にすべきである。

加藤町長

水道会計は企業会計で、基本は独立採算制である。どこの市町村も今水道施設が老朽化し、下水道と同様に困っているが国の支援策は確立していない。

先日の自民党移動政調会にて水道や病院のことも含めて

要請してきたが、支援策はまだ決まっていない。今後改修期間や財源も含めて、どういう方法が一番町にとっていいか検討していく。

Q 曾我病院への債務の軽減策を

A 経営状況、実態を調査し検討する

村川議員

町民の方々から延命治療のできる曾我病院を絶対になくさないよう、強く要望されている。

看護師不足による入院患者の減やコロナ禍による通院者の減により経営は厳しく、債務が発生している状況であるが、病院の存続を図るために、債務の軽減策を考え、経営を安定させる必要がある。

関係機関を入れ、協議する必要があると思うが町長の考えは。

加藤町長

本町の地域医療は、公的な診療所として町が全面的に支援を行っているゆうゆう厚生クリニックと民間病院である曾我病院の2つの医療機関によって担っている。

現在、町からの曾我病院に対する支援策は、医療施設および医療機器の整備に対するの支援と入院病床の維持確保に対するの支援である。

曾我病院の運営は、令和4年度に新型コロナウイルス感染症が拡大した影響などにより患者数が減少して以降、看護師不足などによる影響もあり、厳しい経営状況が続いていると認識している。

私は、このたびの町長就任に当たり、町民の健康と長寿の生活を維持するため、医療機関の充実を図ることを公約としており、町内で唯一入院病床を有する曾我病院の入院病床を維持確保することは、町の重要な施策であると考え

ている。

今年の8月には、曾我病院の渋谷院長より今後10年間の経営計画に基づき、現行の入院病床の維持確保に対する町の財政支援の継続について要請があった。

町としては、この曾我病院からの要請に基づき、現状の支援を基本として、十分に連携を図りながら、新年度に向けて支援内容の充実を含めて検討していく。

また、入院病床を有する民間病院への公的支援に対する地方財政措置について国および北海道に対してより一層強く要請をしていく。

【再質問】

村川議員

曾我病院の対応は、民間病院ということではなかなか思うような支援ができていない。

管内でも個人病院に2億円前後の負担をしている自治体がある。医療はその地域にとって絶対なくてはならない必要なものだという認識を町民も持っており、それぐらい

財政負担してでも、その病院を守っている。今管内でも本当に延命治療ができる病院がなくなってしまう。

確かに経営の中に行政が入っていくというのは支障もあるかもしれないが、取引銀行との関係もこの債務の関係について、町もこれだけの支援をするからということをや要請しながらいかないと、病院経営が自然消滅してしまうので、町として真剣に捉えていきたい。

病院側、金融機関、町と、3者懇談で話し合っただけでは、なかなか前に進まないのではないかと。

加藤町長

曾我病院は、延命治療を行う病院としてなくてはならない病院だというふうに考えている。

曾我病院からは、現在の支援事業の継続要望があったが、私としては最低限この補助金制度を生かしながら、経営状況、実態を調査し、金融

機関とも相談しながら曾我病院の今後の方針について検討していく。

Q バス券、ハイヤー券の実情に合った対応を

A バス乗車困難者は町に連絡を

村川議員

現在高齢者の外出支援は、バス券、ハイヤー券で対応しているが、バスの利用者からは、バス停に行くまでが大変だという声があり、ハイヤー券は近距離の方は月約4回、遠距離の方は月約2回と、料金の違いにより病院、買い物に行く回数に限られているとの声が多くある。

独り暮らしの高齢者が増える中、バス券、ハイヤー券の

利用者の実情に合った対応は必要と考える。

また、今後はハイヤーと同様に日程を決め、希望者宅を回り乗せていくというような仕組みを考えるべきと考えるが、町長の考えは。

加藤町長

本町では、70歳以上の高齢者に対し、最寄りのバス停から町内の医療機関、または遠軽までのバス券を1人年間72枚を限度として助成している。

また、歩行困難でバスに乗車することが困難な方などには、中湧別、北兵村地区の方は1枚500円のハイヤー乗車券を1人年間96枚、金額で4万8000円分、その他の地区の方は192枚、金額で9万6000円分を上限として助成しており、1回の使用枚数の制限もない。

身体上の理由からバスに乗車することが困難な方でハイヤー券の助成を希望される方に対しては、包括の保健師が身体状況などを伺い、助成対象を認めた場合はハイヤー券

の助成を受けることができない。

過去にハイヤー券の利用実績を調査した際、交付されたハイヤー券を全て使い切った方は数名であり、決して不足するような金額ではない。

なお、ハイヤーと同様に日程を決め、希望者宅を回り乗せていく仕組みについては、地域公共交通検討プロジェクトを立ち上げ、本町として交通弱者の足の確保の在り方を検討していく。



大型化する災害への対応は



迅速で正確な情報発信の整備を行う

小形議員

去る12月8日深夜に東北沖を中心として東北、北海道地方の広範囲に地震があり、広域的な津波や火災の発生も確認されたが、海の近くで生活している者には、津波は脅威である。

現在の耐震化の満たさない湧別庁舎にも多くの職員が働いており、新庁舎建設計画では、2庁舎を集約して1つにし、災害時の事業継続と迅速に指揮、復旧作業ができるよう災害対策本部の充実を図るものであったが、災害の規模が大型化してくる中、町民の生命や財産をどう守っていく考えか。

加藤町長

今回の青森県東方沖地震では、青森県で最大震度6強を記録し、本町でも5年ぶりに震度3を記録したことから、地域防災計画に基づき担当職員を庁舎に非常登庁させ、対応させた。

災害の規模が大型化してくる中、町民の生命や財産をどう守っていくのか、非常に重要な問題であると認識しており、湧別庁舎は、耐震化基準を満たしていないことから、そこで働く役場職員への配慮も必要である。

そのため、当面は現在の分庁舎方式を継続する一方で、上湧別庁舎に一部機能を集約することができないか検討を進め、災害対策本部としては現在の上湧別庁舎を引き続き活用していく。

また、災害には自助、共助、公助が必要であり、町が担うべき公助においてまず重要なことは、迅速で正確な情報発信であり、防災スピーカーや漁港カメラを本年度更新し、その操作も上湧別庁舎に一元化する。

また、本年度拡張した公式LINE(ライン)に一人でも多くの町民に登録いただくとともに、GISデータ化した防災ハザードマップの周知に努めながら、まずは災害情報の伝達体制を強化し、津波発生時に避難対象地区の住民がどこに避難すべきか、ハザードマップに基づいた避難経路についても改めて住民周知していく。

さらに、備蓄食料や避難所、物品なども計画的に整備し、共助の面では地域の協力を得ながら、自主防災組織の育成にも努めていきたい。

【再質問】

小形議員

新庁舎計画では職員を集約して一本化し、伝達や割り振りなどが迅速に伝わると思うが、分散してしまうと職員の一体化もなく、うまく連絡が取れるのか不安を感じている。

ハザードマップに基づいても実際に逃げたことがないとその恐怖は分からない。

それと、一本化していないと、やはり一体感も生まれないので、庁舎を何とでも集めてほしい。

やはり顔を見て話しをする。ことで大体の雰囲気分かる。

そのまま分庁舎方式でいいのか。

合併して16年もたつてなぜ湧別町が一つにまとまらないのかと思う。

仮に湧別庁舎に昼間津波が来たときはどうするのか。

大潮のときに津波が来たら、職員も一斉に逃げなければならず、電話でやり取りして一体感を図るとか、そういう問題ではないのか。

加藤町長

災害があった場合は、防災対策本部を立ち上げ、職員に指令を出し、どこに配置するかと進めていくことになっている。

過去に旧湧別町から津波による文化センターTOMの解放要請があり対応したが、その大変さは痛感しており、一

刻も争うときには、迅速に避難場所を確保していかねばならない。

庁舎については、コミュニティセンターを使い、集約化を図っていく。

私は合併直後、総務課長としていろいろところで懇談し、その当時はなかなか一つの町になることは難しいというのが実感だったが、16年経って徐々に一つの町になり、一体感があると考えている。

湧別町という町は全道に誇れる町だと実感しており、よりよいまちづくりを進めていきたい。

Q 人口減少対策への考えは

A 働く場の確保と住環境整備、住宅分譲地の整備を行う

小形議員

町に寄せられた新庁舎建設反対意見の中で、町の人口も7千人台になり、新しい産業もなし、今後も減る一方、北見市のようになるのは御免ですといったものがあつた。この意見は、次の3つの問題を含んでいると考える。

①人口減少対策問題

②産業振興問題

③財政問題

町長の新庁舎に対する見解とこれらの3つの見解、また、今後の方向性は。

加藤町長

新庁舎に対する見解と今後の方向性について今の湧別町が最優先でやらなければならぬことは庁舎建設だけでなく、産業振興対策、高齢者施設、医療機関の充実、交通弱者の足の確保、子育て支援などをはじめとした町民の生活に直結した施策の推進であると思つているので、新庁舎の整備は今だけでなく、将来必要になつたとき、そのときの人口、財政状況、職員数等を踏まえ

た上で身の丈にあつた庁舎を建設すべきと思つている。

また、今後の方向性については、しばらくは現在の分庁舎を継続しながら、上湧別庁舎への一部集約も検討した上で将来的には地域と協議を進め、集約を図っていきたい。

【再質問】

小形議員

人口減少対策は産業振興においても、何においても関わってくることであり、町長は、この対策についてどのように考えているのか。

加藤町長

人口減少は全国的な問題であり、特に東京周辺、名古屋周辺、大阪周辺は伸びている、あるいは維持している状況だが、北海道の人口自体も減ってきている。

私は、産業振興を行つて働く場を確保し、町内に若者が住み続けられるよう住環境の整備を図り、また住宅分譲地を新たに整備し、町外からの

移住者を増やす、この2つを主に、これから人口減少対策を進めていきたい。

Q 全道に誇れる湧別町とは

A バランスのとれた1次産業の利点を生かしたまちづくり

小形議員

町長の選挙期間中の言葉に全道に誇れる湧別町にしたいとの発言があつたが、町長が思う、誇れる町とはどのようなものか。

加藤町長

先日のイベントの際に、北見工大の先生、小樽商科大学の先生も湧別町は非常に魅力的な町だとおっしゃつてい

た。私は、そのことが客観的に見られて湧別町は誇れる町というふうに自負している。水産業、酪農、畑作と、この3つがバランスの取れた町は全道でそう多くはない。その利点を生かして、子育て支援、若者が安心して暮らせる町、住環境をプラスしていけば十分全道に誇れる町だと言える」と確信している。

加藤町長

新庁舎の凍結により計画において他の公共施設の方向性に影響が生じることはない。現在の公共施設等総合管理計画は、平成29年度から令和8年度となっており、令和8年度において令和9年度を始期とする新たな公共施設等総合管理計画および公共施設再配置実行計画を策定している。

〔再質問〕

小形議員

最初の再配置計画では40年かけて、今ある施設にかかっている18億円の費用を12億円に抑えるという計画で、新庁舎の最初の案では統合し公共施設を減らしていくものであったと思う。計画の10年を過ぎ、残り30年でのどのような状況か。

加藤町長

これから新しい計画に臨むために今までの経過を踏まえ

新庁舎凍結による公共施設再配置計画の影響は

小形議員

新庁舎の凍結により、公共施設再配置計画にある統合、複合化、用途変更、譲渡、廃止、更新などの方向性は変わらないのか。

他の公共施設の方向性への影響はない

A

町長の行政報告

— 要約掲載 —

農作物および

漁業生産物の状況

小麦の収量は平年の89%、てん菜は99%、玉ねぎは91%と平年並み又は平年を下回る結果となりました。

サイレージ用トウモロコシは平年比100%、牧草は平年比121%、生乳生産量は前年比103%となりました。

湧別高校2間口確保の決定

去る10月2日、北海道教育委員会から令和8〜10年度までの公立高等学校配置計画が公表され、来年度の湧別高等学校の募集間口は2間口維持と正式決定しました。

4月から9月にかけて気温が高く、平年より雨が少なかったため、一部の作物で生育に影響がありました。外海ホタテは生育不振による小型化など、複合的な要因により当初計画より16%減の漁獲量を見込んでおりますが、販売単価の上昇により漁獲金額は増の見込みです。また養殖ホタテも販売単価は過去最高を記録しています。サケ漁は海水温の上昇による来遊数の減少により、記録的な不漁となった昨年を下回る歴史的な不漁となりました。漁獲金額全体では昨年度から12.1%増の1億5100万円となるものと予想されています。

農業・漁業ともめまぐるしく変化する自然環境や社会情勢等に対応いただきながら、農作物および漁業生産物の品質向上、収量、漁獲量の確保にご努力いただいた農業者並びに漁業者の皆様方、関係機関および関係団体の皆様のご支援とご協力に、心よりお礼を申し上げます。



湧別高校生と議会との意見交換会の様子

湧別歯科診療所の 診療体制

去る10月18日、湧別歯科診療所の田川博英歯科医師より、12月27日をもって、湧別歯科診療所業務委託契約を解除したい旨の申出があり、受理いたしました。

後任の歯科医師については、谷原晃介歯科医師からご相談があり、湧別歯科診療所の再開に際し、内諾をいただきました。

谷原歯科医師は本町の出身で、遠軽町のクリニックの勤務医として勤務されており、令和8年2月上旬を開所予定として、週6日開所いただく予定となっております。
地域に根差した医療を提供してくださるものと期待を寄せているところです。

全国大会出場

去る11月22日、大阪城ホールにて「全日本小学生バンドフェスティバル」が開催され、上湧別学園金管バンドがフロア部門に出場しました。

また、上湧別学園・ゆうべつ学園合同バンドが11月9日に東京都尚美バリオホールで開催された全国大会に出場、さらに、湧別高校吹奏楽局は11月15日に千葉県文化会館で開催された「日本学校合奏コンクール全国大会・グラントコンテスト」に出場しました。

町内の義務教育学校、湧別高校がそろって全国大会に出場するということは、非常に素晴らしいことであり、児童・生徒・指導者の皆様、活動を支えられた保護者の皆様のご努力に敬意を表する次第であります。

東京湧別会定期総会出席

去る11月30日、東京都内において東京湧別会の第16回定期総会並びに懇親会が開催され、70名余りの方が参加されました。

本町からは町長、副町長、教育長、阿部漁協組合長、橋本商工会長、札幌湧別会大館会長などと共に出席しました。

総会では事業報告、収支決

算などの議案が全て承認され、その後の懇親会では、「日本酒・湧別」を振舞い、恒例の歌謡ショーなどで会場は大いに盛り上がり、親睦と交流、郷土愛を深めるひとときを過ごすことができました。

玉ねぎの寄贈

去る12月10日に上湧別玉葱振興会様から15年連続で玉ねぎ1000kgのご寄贈がありました。

学校給食に地場産物を取り入れることにより、児童生徒が地元の産業に対する関心を深め、食を通じて自然の恵みの大切さを感じてもらおうといった重要な食育の役割を担っており、近年の食料品価格高騰の中、ご寄贈いただきました心から感謝申し上げます。

北見工業大学との 包括連携協定の締結

去る12月13日に北見工業大学と包括連携協定を締結しました。

調定式は上湧別コミュニ

ティセンターで行われ、北見工業大学榮坂学長、村田・川口副学長のほか、小樽商科大学江頭副学長、株式会社上川大雪島崎会長にもご出席いただきました。

北見工業大学ではこれまで町内の企業や産業団体などとそれぞれの分野で共同研究が行われていて、湧別高校の授業にもご協力いただいております。

今回の協定締結を契機に、専門的見地からご助言をいただくなど双方の連携を図ってまいります。

小樽商科大学 湧別サテライトの設置

小樽商科大学は全道にサテライト教室の設置を目指しており、昨年12月に包括連携協定を締結し、湧別サテライト

の設置に向けた協議を進めておりましたが、去る12月14日文化センターTOM会議室に道内4か所目の小樽商科大学湧別サテライトが開設され、同日、キックオフイベントにて芭露ハツカをテーマにした基調講演などが開催されまし

た。

湧別サテライトの開設により、町内に居住しながら高等教育を受けられる環境が整い、今後は若者の地元定着・地域人材の育成など、町内企業などとともに、連携・協力を図り、サテライト機能を有効に活用していきたいと考えています。

死亡交通事故の発生

去る12月10日、計呂地の道道にて、軽乗用車やトラックなど3台が絡む事故があり、軽自動車を運転していた60代男性が亡くなる、大変、痛ましい交通事故が発生しました。亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

この事故により本町の交通事故死ゼロの日は314日で中断し、新たに300日の目標を立て、交通安全運動に取り組むことといたしました。

審議結果一覧

Result of Deliberations

令和7年
第4回定例会

審議された議案等

(1万円未満切捨て)

予 算	令和7年度湧別町一般会計補正予算 5・6回目の補正で、2億977万円を追加し、歳入歳出予算の総額を126億6,948万円とするもの。(追加補正を実施)	原案可決
	令和7年度湧別町国民健康保険特別会計補正予算 2回目の補正で、49万円を追加し、歳入歳出予算の総額を14億4,951万円とするもの。	原案可決
	令和7年度湧別町介護保険特別会計補正予算 2・3回目の補正で、272万円を追加し、歳入歳出予算の総額を12億546万円とするもの。(追加補正を実施)	原案可決
	令和7年度湧別町水道事業会計補正予算 2・3回目の補正で、収益的収入に27万円を追加し予定額を1億9,361万円とし、収益的支出に321万円を追加し予算額を2億3,858万円とするもの。(追加補正を実施)	原案可決
	令和7年度湧別町簡易水道事業会計補正予算 1回目の補正で、収益収入・収益的支出にそれぞれ56万円を追加し、予算額を1億2,806万円とするもの。	原案可決
	令和7年度湧別町下水道事業会計補正予算 2・3回目の補正で、収益収入・収益的支出にそれぞれ170万円を追加し、収益収入の予算額を2億6,955万円、収益的支出の予算額を2億6,855万円とするもの。(追加補正を実施)	原案可決
条 例	湧別町宿泊交流施設YuraYubetsu条例の制定について 令和8年度からの湧別高等学校生徒の入居並びに宿泊者の受入れに向け、寄附を受けた施設の名称、位置、利用者の資格、使用料などの必要な事項を定めるため制定するもの。	原案可決
	湧別町保育所条例の一部を改正する条例の制定について 芭露保育所の移転改築により必要な事項を改正するため制定するもの。	原案可決
	湧別町児童センター条例の一部を改正する条例の制定について 芭露保育所の移転改築に伴い、芭露キッズ放課後児童クラブを新設するため制定するもの。	原案可決
	湧別町寿の家及び福祉の家条例の一部を改正する条例の制定について 湧別寿の家を廃止するため制定するもの。	原案可決
	湧別町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について 令和7年人事院勧告に基づき、職員の給料月額、期末手当および勤勉手当の支給月数、通勤手当の支給月額、宿直手当額等を改正するため、本条例を制定するもの。	原案可決
	湧別町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について 令和7年人事院勧告に基づき、議会議員の期末手当の支給月数を改正するため、本条例を制定するもの。	原案可決
	湧別町特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について 令和7年人事院勧告に基づき、特別職の期末手当の支給月数を改正するため、本条例を制定するもの。	原案可決
	湧別町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について 令和7年人事院勧告に基づき、会計年度任用職員の通勤手当と宿直手当を職員に準じて支給できるように改正するため、本条例を制定するもの。	原案可決
その他	湧別町公の施設に係る指定管理者の指定について 令和7年度末において期間満了となる湧別町営バス、湧別町社会福祉会館、宮の森センターほか地区公民館について、指定管理者の指定を行うもの。(計18件、いずれも期間は5年間)	原案可決
	財産の処分について(2件) 森林経営計画に基づき町有林の立木処分を行うもの。	原案可決
	オホーツク町村公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の増加及びオホーツク町村公平委員会規約の変更について	原案可決
議会提出	閉会中の所管事務調査等の申出 総務厚生常任委員会 1) 総務厚生常任委員会が所管する事項全般について 産業文教常任委員会 1) 産業文教常任委員会が所管する事項全般について 議会運営委員会 次期議会の会期日程等議会運営に関する事項及び議長の諮問に関する事項	承認

議会の活動

令和7年11月～令和8年1月

- 11月 3日(月) 湧別町功労者表彰式典
湧別高校学生寮完成披露内覧会
- 12日(水) 第69回町村議会議長全国大会(東京都)
- 15日(土) 認定こども園みのり第4回おゆうぎ会
- 19日(水) 第3回議会全員協議会
- 21日(金) 第4回議会臨時会
第6回総務厚生常任委員会
第4回産業文教常任委員会
第8回議会運営委員会
第5回広報編集特別委員会
- 23日(日) 上湧別神社新嘗祭
- 26日(水) ポレポレゆうべつ収穫感謝祭
- 29日(土) 長谷川岳参議院議員を迎えて国政報告会
- 12月 4日(木) 第4回議会全員協議会
- 7日(日) 自由民主党北海道第12選挙区支部移動政調会(北見市)
- 8日(月) 遠軽地区広域組合議会定例会(遠軽町)
- 11日(木) 第9回議会運営委員会
- 14日(日) 小樽商科大学湧別サテライト開設に伴うキックオフイベント
- 16日(火) 第4回議会定例会(~17日)
ゆうゆう厚生クリニック運営委員会
- 23日(火) 農業委員会忘年会

令和8年

- 1月 5日(月) 遠軽地区広域組合湧別町消防団消防出初式
- 9日(金) 商工会新年交礼会
- 11日(日) 二十歳の集い
- 15日(木) 第1回議会全員協議会
- 19日(月) 第1回議会運営委員会
第1回議会臨時会
- 22日(木) 北海道の鉄道のこれからのを考えるシンポジウム(北見市)
- 28日(水) 第1回議会広報編集特別委員会

お悔やみ申し上げます。

町政、まちづくりにご尽力された元議員が、令和7年1月から12月までの間にご逝去されました。謹んでお悔やみいたします。

□ 松原 祐治氏(満87歳)

旧上湧別町、湧別町で

4期14年5カ月

令和7年8月17日にご逝去

□ 山本 栄子氏(満71歳)

湧別町で4期15年

令和7年8月23日にご逝去

□ 八巻 貢氏(満95歳)

旧上湧別町で7期28年

令和7年11月18日にご逝去

議会・委員会等議員出欠状況(改選前)

令和7年1月～11月

○…出席 ×…欠席 ()は欠席の理由 -…出席対象外

区分			議員氏名										
			議員 関野一良	議員 高田映二	議員 加藤政弘	議員 村川勝彦	議員 下田英人	議員 酒井純一	議員 小形秀和	議員 檜山洋一	副議長 脇坂敏夫	議長 村田一志	
定例会	第1回	3月5日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3月6日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3月11日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		3月12日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	第2回	6月17日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		9月16日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	第3回	9月18日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		9月18日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	臨時会	第1回	1月10日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第2回		5月12日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第3回		8月4日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
総務厚生常任委員会	第1回	1月23日	-	○	○	-	○	○	-	○	-	○	
	第2回	2月13日	-	○	○	-	○	○	-	○	-	○	
	第3回	2月19日	-	○	○	-	○	○	-	○	-	○	
	第4回	5月27日	-	○	○	-	○	○	-	○	-	○	
	第5回	9月1日	-	○	○	-	○	○	-	○	-	○	
産業文教常任委員会	第1回	2月14日	○	-	-	○	-	-	○	-	○	○	
	第2回	6月2日	○	-	-	○	-	-	○	-	○	○	
	第3回	8月13日	○	-	-	○	-	-	○	-	○	○	
議会運営委員会	第1回	1月10日	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	
	第2回	3月3日	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	
	第3回	4月16日	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	
	第4回	5月12日	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	
	第5回	6月12日	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	
	第6回	8月4日	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	
	第7回	9月10日	○	○	-	-	-	○	○	-	○	○	
議会広報編集特別委員会	第1回	1月31日	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	
	第2回	4月25日	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	
	第3回	7月30日	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	
	第4回	10月10日	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	
決算審査特別委員会	第1回	9月16日	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	
	第2回	9月17日	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	
全員協議会	第1回	2月10日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	第2回	8月4日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			27	26	23	21	21	26	24	19	21	26	

議会・委員会等議員出欠状況(改選後)

令和7年11月～12月

○…出席 ×…欠席 -…出席対象外

区分			議員氏名										
			議員 高田映二	議員 村瀬直由	議員 大野真紀	議員 竹林直人	議員 姉崎正弥	議員 檜山洋一	議員 関野一良	議員 村川勝彦	議員 小形秀和	副議長 下田英人	議長 脇坂敏夫
定例会	第4回	12月16日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		12月17日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
臨時会	第4回	11月21日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
総務厚生常任委員会	第6回	11月21日	-	○	-	○	-	○	○	-	-	-	
産業文教常任委員会	第4回	11月21日	○	-	○	-	○	-	-	○	○	-	
議会運営委員会	第8回	11月21日	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	
	第9回	12月11日	○	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
	第10回	12月16日	○	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
議会広報編集特別委員会	第5回	11月21日	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	
全員協議会	第3回	11月19日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	第4回	12月4日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			9	7	7	7	7	6	9	9	9	7	



広報議会だより発刊にあたって

広報編集特別委員会 委員長 姉崎 正弥

このたび、議会広報編集特別委員長を拝命いたしました。

これまで先輩方が発信してこられた広報のあり方を大切にしながら、新たな視点での掲載方法について議論を重ねております。

私たち町議会議員は、湧別町で起きている課題に向き合うと同時に、10年後、20年後を見据えたまちづくりを行政機関とともに担っていく責務があります。そして将来、この職務を志してくれる若者に関心を持ってもらうことも、議会広報編集特別委員会の重要な役割の一つと思っております。

町民の皆さまにとって「読みやすく、わかりやすく、間違いにくい」広報誌を目指してまいります。

皆さまとともに町の魅力や課題を考えていく、そのきっかけが議会広報誌だったと思っていただけるよう、精一杯取り組んでまいります。



第1回広報編集特別委員会の様子

ゆうべつ町議会だより第64号

2026(令和8)年2月25日発行

発行/北海道湧別町議会

編集/議会広報編集特別委員会

委員長 姉崎 正弥

副委員長 村瀬 直由

委員 大野 真紀

委員 竹林 直人

〒099-6592

北海道紋別郡湧別町

上湧別屯田市街地318番地

TEL01586-2-2130/FAX01586-2-2511

印刷/株岡田印刷 林印刷所



第64号の表紙

1月27日に行われた乳幼児健診の様子です。体重を測ったり、フッ素を塗ったり、保健師や栄養士とお話をしたり、子どもたちの健康管理のために、お父さん、お母さんにつれられて、たくさんの子もまたが集まりました。待合所の遊び場では、大きな子も小さな子も、順番を守って遊ぶ様子が見られました。笑い声がいっぱいの楽しい健診でした。